

# はくさん

## 大自然の力

第111号 R1年秋号  
伊豆市 法住寺 発行

台風、水害の多い秋の初めでした。当山の檀家さんでも床上浸水されたお宅や浸水で車が廃車など被害があり、心よりお見舞い申し上げます。

9月9日夜半、伊豆半島に上陸し北上した台風15号は大雨を降らしました。無事を祈った翌朝、境内は大荒れでしたが被害はなくホッと一息、掃除は3日間かかりました。周辺をみると第1墓地の右斜面が少し崩れ、大きく育ったサルスベリが2本折れてしまいました。第2墓地を見に行くと、斜面の崩れ等がなくひと安心。

### 「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。合掌  
社会の皆さん ありがとうございます。合掌  
ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます。合掌

大京道路現場と伊東修護持会長



電線処理され、土砂運び出し



一部屋以上もあり  
そうな巨大な岩が  
道路に落ちていて、  
崖には今にも落ち  
そうな大きな岩も  
あります。

ともかく土砂を  
取り除かなければ  
と思うのですが、  
崩落で電柱が巻き  
込まれ、重機を入  
れることが出来な  
いのです。既に現

ただ大京道路は土砂が多く小石ほどの丸い白岩がゴロゴロ、ゴロゴロ。何時もと様子が違います。お墓から道路を登って最初のカーブを曲がるとガーン!!。目に飛び込んできたのは山のような大量の土砂。山側の斜面が大きく崩落したのです。谷側は切通しになっていて壁の役目をし、土砂を防いでいます。崩落現場がもう少し上だと、第2墓地上部の谷に流れ込んだと思います。

車は勿論、人も通れません。それでも谷側の切通しをよじ登り更に様子を見に行くと、

場で作業している方に聞くとNTT関係の電話線を処置しているとのこと。この他、東海ケーブル、東京電力などの電線があり、その処置だけで数日かかり、その後仮の電柱を建て保線するのです。その電柱を建てるのに地主が誰で許可が必要と厄介なことでした。その後、重機が入りダンプで運び出し、延べ50台位だと現場監督。土砂の処分場を比較的近くに確保でき、数日間土砂は取り除かれました。その後道路の真ん中を何か所も深く掘って鉄骨を建て、壁が設けられ、やっと

通行止め解除、相互通行です。

暫くすると崩落現場の上で土質調査、パイプをねじ込み土のサンプルを取っていました。修復工事で何処まで基礎を打ち込めば良いか調べているとのこと。この場所は何処まで掘っても固い岩に届かないと作業員がぼやいていました。海が隆起した粘土質の地盤なのです。本格的な工事は何時から始まるかわかりません。

大京道路の一部の崩落ですが、これだけの様々な力が必要と改めて災害の復旧作業の大変な事を思います。

\*

温暖化等による地球環境を如何に健全にしていくか、私たち一人ひとりの問題として突きつけられています。改めて私たちは地球や大自然の中で生かさせて頂いていることを思います。大自然は人々を苦しめようなど微塵も思っていないのですが、私たちが熱を出したりクシャミしたりして体を調整するのと同じように、大自然も生きているのです。日頃から大自然を畏敬し祈り、傲慢になり過ぎないようにと想います。

## お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

「昌子さん、よく動くねえ」と度々言われる。誉めているというよりは「半ば あきれます」というニュアンスが含まれている様な気もする(笑)

そういわれる度に「マグロの回遊です。止まったら死にますよオーッ」などと笑って冗談でかわしているが、実際に朝起きたら夜までソワソワ動いていたのだ。住職からも「少し休んだら」と言われるが「これが私だ!!」と言いたい。

でもなぜ動いてしまうのか、考えてみた。そしてこれは本能ではないかと思いたった。私は自分の体を動かしていることで、無意識の中にも「生きていく」という実感をつかんでいて、多少のかかえている不安から解放されているのかもしれない。(そう思うと目の前にやる事があるのは幸せだ)

見回せば、世の中不安だらけだが、その不安を消すことよりも、むしろ抱きしめながら日々、喜怒哀楽と共に生きてゆきたいと思う。今日はお詣りに来た親子が庭で遊んでバツタをつかまえていた。虫が大好きな少年は

生き生きと無心に遊んでいる。帰り際に虫大好きな孫に読み聞かせた「虫たちの運動会」という本があったので思い切って持たせた。全身で喜んでいいる少年の姿に私も無心に嬉しかった。

## 護持会総会

エアコン設置、本堂に

お盆の施餓鬼会、毎年ご先祖さまの菩提をご供養しています。本堂いっぱいの方々、猛暑の8月3日、出来る限りの暑さ対策はしているのですが、年々暑さは増すばかり。そこでエアコンを設置することが護持会総会で



承認され、工事にはいります。

感謝状

今年の3月までお勤

お盆のお施餓鬼、暑い中、本堂いっぱいのお詣りです

白龍会中心に万灯、纏の奉納



め頂いた護持会  
役員さんに住職  
から記念品が、  
2期以上お勤め  
頂いた方々には  
感謝状も贈られ  
ました。

### お会式、 万灯

今年も良いお  
会式をお勤めさ  
せて頂きました。

この式に合わせ  
ての農作物奉納、  
お手伝い、白龍会  
様々な多くのお  
力を頂き、お祖師  
さまにご給仕で  
きました。誠に  
ありがとうございました。

### 池上万灯

### 団参中止

お勝手は西地区の女衆さん



予定されていた10月12日の東京池上本  
門寺さまお会式、万灯行列の参加は台風19  
号の接近で中止となりました。今年初めて参  
加の若い衆、子供たちも多くバス2台でと、  
白龍会小塚順一会長を中心に盛り上がりた  
のですが、止むを得ませんでした。

### 寺子屋

今年も子供たちの寺子屋が開かれました。  
定員オーバーの20名、申込みをお断りさせ  
て頂いた方もあり、申し訳ございませんで  
した。

ツリークライミングは人気があり、毎年の  
内容になっています。真夏の太木の上からの  
涼風、イイナァ。正座での読経、気持ち  
シャキッ!! 今日初めて会った子供たちとの  
寝食2日間でした。どれを載せようかと写真  
を見ていて、今年の夏も子供たちに元気を  
もたらしたなあとチョットじゅんとウルル。  
尚、来年は伊豆市がオリンピック自転車会  
場となり、寺子屋の時期と重なります。子供  
たちには、ぜひ会場まで行って競技を応援し  
世界を実感して欲しいと思います。この期日  
を外して寺子屋を検討したのですが、夏はお

ツリークライミングの林  
インストラクター、子供たち



盆の棚経が当  
地、京浜方面  
等あり他の行  
事も多く、来  
年は実施でき  
ませんのでご  
承知ください。

### 増設 寿量の塔

寿量の塔は  
多くの方々の  
支持を頂いて  
おり、供花・お  
詣りが何時も  
あり、寂しくな  
い永代供養塔  
に育っていま  
す。皆さまのお  
蔭と感謝して  
います。この度、  
銘板立てと樹  
木墓の香炉・花  
立てを増設し



夕飯は自分たちで作ったカレー  
大勢のボランティアのお力感謝

ました。今後とも多くの方々へ気持ち良くご使用頂けるよう精進してまいります。



私には高校二年生の息子と、高校一年生の娘がいます。娘は毎日、お寺から通学しています。しかし息子は小学生から続けているサッカーの縁で、藤枝の高校に入学し寮生活を送っています。中学までは地元の中を通っていたので親として何かと口をだし、少しはサポート出来たのですが、遠方にいますと出来ることは限られてくるものです。今できることは寮費の支払いと、良き監督、指導者、チームメイトの良縁に恵まれますよう、事故無く怪我無くと祈ること。そして何時も手を合わせ感謝の気持ちを持ち続けてくれること。改めて親が子に出来ることの限りを感じます。

### 御志納金「七月〜十月」

西 佐藤敏明殿 尊母葬儀砌  
元村 飯田安久殿 尊母七七忌砌  
元村 伊東由廣殿 尊父十三回忌砌  
伊豆市 吉田孝子殿 永代供養砌  
伊豆市 大川るり子殿 永代供養砌

さて逆に子が親に出来ることとは何でしょう？いろいろなあるでしょうし、限りもあるでしょう。私自身、親に何が出来るのか？など、普段思うことはまずないのですが、今はつきりと思うことが一つあります。それは僧侶として、子として、この1月に母を七面山に連れて行きたいことです。

\*  
母はしょっちゅう「腰が痛い、膝が…！」と言っています。身内の事なのでこう書くのはいかがと思いますが、確かによく働き動く。「お寺に来た方が、寂しい思いをして帰らないように」を信条としています。

その母はまだ一度も七面山に登詣したことがありません。母の実家の菩提寺は、徳川家康の側室・養珠院お万の方にとっても縁が深く、法住寺の本山、玉澤妙法華寺(三島市)にはお万の方の墓所もあります。母はお万の方にご縁があるように思います。

\*  
私は、以前からその母を七面山に連れていきたいと思っていたのですが、足腰に自信がない姿を見ていて、無理ならば母が亡くなったら遺骨と一緒に詣り出来ればいいか

らに思っていたのでした。しかし今年は、お万の方が当時女人禁制だった七面山に女性として初めて登られて四〇〇年の節目の年。きつと七面大明神もお万の方も呼んでくださっているでしょう。また私たちの信じお唱えする法華経、お題目は、後々どうすればいいよりも、今を目の前のことを大事にする教えです。「今どうするの？」の智慧が沢山詰まったお経です。母が亡くなってからのことではではなく、生きていくうちに共に登詣する。この時を逃すわけにはいけない、私はそう感じたのです。

「以信得入」、「信もって入ることを得る」法華経譬喻品第三に説かれているお経の説です。正直、母が登詣出来るかはわかりません。ひよつとしたら途中で下山することもあるかも知りません。ただこの教えのごとく、まずは登詣させて頂けることを信じる、信じ切る。お題目を唱えながら、仏天のご加護をはじめとする他力を頂戴出来るよう祈りながら、自力を高め一步一步七面大明神の鎮座される山頂を目指してきたいと思えます。結果はまた今度。